

もみゆ、軟障と書り、軟音善也、まさすけに東三條にありしは、さが野にかりせし少將をぞか、れ
 たりしと書るは、昆明池の障子の裏形也、野を書てかた方に屋形ありといへり、三代實錄に、紫宸
 殿の軟障と見えたり、細流に、ついたり障子などのやうなる物也といへり、七修類纂に、古有硬屏
 無軟屏、軟者圍屏也、圍屏與泥金綵漆皆出于日本と見えたり、これは今いふた、み屏風なるべし、
 住吉物語にかみびやうぶと見ゆ、西土の書にも紙屏あり、

〔源氏物語須磨〕海づらもゆかしくて出たまふ、いとおろそかにせん、ぞやうばかりを引めぐらし
 て、このくに、かよひける陰陽師めして、はらへせさせ給、

〔源氏物語湖月抄〕軟障セツヤク 細ついたり障子などのやうなる物也、假名にはせんじやうと書

る本あり、只せじやうと可讀、明阿云、軟障有畫圖、松也、謂高松軟障堂上立軟障堂下引幔、又堂下
 ニモ有立之、内宴妓樂之時ト云々、一注、幕のごとくなる物に、高き松など繪に書て、壁に添て
 引也、

〔源氏物語玉鬘〕この御てらになんたびく、まうでける、れいならひにければ、かやすくかまへ
 たりけれど、かちよりあゆみたへがたくてよりふしたるに、豊後のすけ、となりのせ、ぞやうのも
 とによりきて、略下

〔新猿樂記〕六郎冠者繪師長也、略中 軟障、扇繪等上手也、

〔續日本後紀〕九明承和七年九月乙未、伊豆國言賀茂郡有造作島、本名上津島、略中 巖壁伐波、山川飛

雲、其形微妙難名、其前懸夾纈軟障、即有美麗濱、以五色沙成、

〔雅亮裝束抄〕もやひさしのてうどたつる事

たかまつのせんざうをか、東三條にありしは、さが野にかりせし少將をぞか、れたりし、これ
 をたつることまれの事なり、略中

軟障初見
 軟障製作